

(4) 様式 4_助成事業実施報告書 (※ このまま使用される場合、コピーして下さい)

2023年〇月〇日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 わいわいサロン
代表者・役職名 氏名 茂木 萌江

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

みんなのお茶の会 わいわいサロン

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

20年前に信託の高齢化が進み、毎年退職者が増える中で、それまで増え続けてきた経験を生かし、お互いが助け合って交流する場を作った。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

一人ぼっちの高齢者をなくし、異年齢集団や団地外の住民とも交流していくことを目指し、
毎月のやりぬいこと生かす活動

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

毎月、サロンをよりを励行し、住民の状況を知らせ、交流のきっかけ、
公社の意向もあり、空き店舗を借りうけたので、日曜日以外の日は、餅山でも
集まれる場を作った。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

コロナの中でも、サロンは休まず続けられた。一時参加者は減ったが、
昨年は毎月400人まで回復し、少くも1回参加している。
折り紙やお茶の会を購入し、会場が広く使えるようになったので、地域の介護
の会や協会の協力を得られ、映画会なども行っている。介護問題の学習会は盛んである

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度まで

若い人との交流がまだないから、八王子市の支援や、他団体との協力を
金銭問題が一番のネックである。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。